令和元年度　自己評価書

学校名	和歌山市立　松江　小学校
校長氏名	石 本　倫 章
作成日	令和 2年 2月27日

1 教育目標

「よく感じ、よく考え、よく行う」子どもを育てる

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	〇全国学調、県学習到達度調査で、県平均を上回る 〇勉強がわかる85%	〇道徳の授業が楽しい90% 〇学校が楽しい95% 〇いじめの解消100%	〇朝ごはんの摂取率100% 〇体育が楽しい80%	〇家庭・地域との連携（保護者90%） 〇学校の情報がよく伝わった（保護者80%）
重点目標【P】	◎基礎基本の確かな定着 ◎自ら考える深い学びの推進 〇自主学習の定着 〇読書活動の推進	◎道徳・人権教育の充実 ◎いじめの早期発見・組織対応 〇仲間づくりの充実	◎体力向上の推進 〇早寝、早起き、朝ご飯 運動の推進 〇体育学習の充実	◎学校情報の積極的な発信 ◎地域の資源の積極的な活用 〇地域の歴史学習の推進
取組の状況【D】	〇全担任が、道徳の研究授業を行うことができた。 〇一斉学習からの脱却を目指し、ペア・グループで話し合いを取り入れている。 〇どの学級でも自主勉ノートにより、自主学習を行っている。	〇教科等別研修会において、道徳科の研究会を実施し、多数の参加を得た。 〇いじめの早期発見に努めた結果、ほとんどのいじめが解消された。	〇朝ごはんの摂取率は、学校全体で90%以上であったものの、100%にならなかった。 〇近畿小学校体育研究大会を行った。 〇なわとび集会等行ったので、なわとび好きの子が増えた。	〇例年の地域との交流以外に「家庭科応援団」（5年）等、地域の方の協力を得た。 〇「新松江今昔」を利用し、地域学習に取り組んだ。（5･6年）
取組の成果と課題（評価結果）【C】	〇基礎的な学力が身についた（保護者80%）と低く、高い評価が得られるようにしていきいたい。 〇児童は、勉強が分かる（80%）と感じている。ただ、目標に届いていないので、特に低学年の数値を上げていきたい。	〇いじめの取り組みが分からない（保護者16%）と感じている保護者が相当数いるので、いじめ解消の取り組みを今以上に知らせる必要がある。 〇学校が楽しい（95%）、友達と仲良くする（95%）、ほとんどの児童は楽しい学校生活を送れている。	〇早寝・早起き・朝ごはんを推奨している。児童は、ほぼ8時までに登校できているので、基本的な生活は確立している。朝ごはんの摂取率の向上が課題である。 〇休憩時間は、ほとんどの児童が外で遊んでいる。特に、冬はなわとびが盛んで、目的をもって活動できている。	〇家庭・地域との連携（保護者92%） を感じている保護者が多く、概ね目標が達成できた。 〇保護者に児童の様子を伝えるために、本年度も「校長室だより」を出している。（№27まで発行済）
次年度に向けての改善方法【A】	〇基礎基本の定着に加え、アクティブラーニングの視点を取り入れた授業を行う必要がある。 〇学校全体で、自主学習を一層充実させるよう取り組む。	〇いじめアンケート実施後の取り組み等、保護者への密な連絡を実施し、解消100%を目指す。 〇一層学校が楽しくなるよう、学校生活の充実を図る取り組みを増やすとともに、学校に来にくい児童の早期発見に努める。	〇朝ごはんの摂取率を100%にするために、各家庭への啓発を進める。 〇外で元気に遊ぶように努める。	〇各種だより等の一層の充実を図る。 〇地域の夏祭りへの参加及び協力体制の構築を図る。 〇英語教育推進のため、中学校区内での一層の連携を図る。

3 その他の課題

〇不登校及び学校に登校しにくい児童に関する課題
・不登校支援員が配置されない場合でも、家庭訪問や保護者との連携を密にできるよう、チームで対応する。
〇情報モラルの確立
・高学年を中心に、スマートフォン所持率が高くなっている。毎年、情報モラル教室を実施しているものの、継続的な指導体制を構築する必要がある。